

の う み ゆたか

能海 寛生誕 150 年記念
顕彰活動全記録

能海 寛研究会

能海寛の顕彰活動全記録

チベット巡礼探検家「能海寛の生涯」 1

能海寛顕彰運動（明治・大正・昭和・平成）の足跡 3

 能海寛の経歴 3

 顕彰運動のはじまり 4

 能海寛研究会の事業概要 5

能海寛研究会機関誌『石峰』掲載論文データ 11

『能海寛著作集』全15巻・別巻1 17

※ 表紙写真:能海寛手植えのハクモクレン(市指定天然記念物)



能海寛研究会学習会 100回の軌跡

隅田 正三

仏教の原典を求めてチベットを目指した浜田市地や、郷里から上京する金城町出身の巡礼探検家・能海寛(のうみ・ゆたか)の事跡を顕彰するため、古里に誕生した「能海寛研究会(岡崎秀紀会長、250人)が発足から17年で、100回の定例学習会を開いた。

能海が30年余りの生涯で残した日記、手紙、出納記録や論文などの著作物は、日本人の初めてチベット文化圏の地を踏んだ探検家としての業績だけでなく、英語などの外国語学習、地域づくりのための組織づくり、国際交流のあり方などさまざまな点を学ぶことができる。

定例学習会は、研究会発足直後の1995年3月にスタートした。2カ月に1回、第2土曜日の午後10時に開いている。益田市の金城町だけでなく、益田市、広島県などから毎回熱心に通う会員もいる。手紙や日記の音読、解釈を基本とするほか、全国から著名な学者を招いた講演会、地元の子どもたちを対象にした学習会も開くなど、後継者の育成も意識している。

2001年には、能海寛の探検ルートの一部が島根県立歴史博物館(現・根拠と友好提携を結ぶ中

「知的国際交流」進む 講演や子ども対象の会も

東洋大学などゆかりの地や、郷里から上京する金城町出身の外弁弁公家が形成されていく中、自治体の協力で、能海寛研究について何を考え、チベット探検を志したのか。国・寧夏回族自治区に重なることが縁となり、訪中。自治体の協力で、能海寛研究について何を考え、チベット探検を志したのか。国際大会が実現。而国の代表が研究発表をした。習年の01年には、自治体の協力で、能海寛研究について何を考え、チベット探検を志したのか。自治体の協力で、能海寛研究について何を考え、チベット探検を志したのか。

能海寛研究会は今後、定例学習会や機関誌『石峰』(能海寛の雅号)の発行など、研究者らに呼びかけ、研究者らには「知的国際交流」による「論文(ろんぶん)」の刊行を計画している。これからは希代の探検家の遺志を継ぎ、能海学の流れのほかに、もう一つ、あつらへていきたい。05年から5年の歳月、(能海寛研究会事務局をかねて編集した)「能海寛」(浜田市金城町在住)



能海寛研究会100回定例学習会(これまで)の足取りを振り返る会員(浜田市金城町波佐、とむらひ会館)

著作集(つしお書店、全18冊)の発表である。能海寛の探検の記録や、日記、手紙などの資料約千点を、9200坪にわたって画像化して収録した。明治維新とともにも生きた能海が、新たな国家

チベット巡礼探検家「能海^{のうみ}寛^{ゆたか}の生涯

能海寛は、世界5億の仏教徒の「世界総会議所」の設置とサンスクリットの原典から「英訳経典」を訳出し、世界へ発信して、「一統宗教」とするためにチベット巡礼探検を自ら企画・実践した学僧である。

明治元年5月18日、島根県那賀郡東谷村(浜田市金城町長田)の真宗大谷派浄蓮寺(父法憧・母ユクノの次男)で生誕した。宗教家(「新仏教徒運動の提唱者」)、東洋哲学者、巡礼探検家、登山家としての業績を残した。

18歳で京都・普通教校で学び恩師南條文雄博士に梵語学の教えを受け、チベット探検の必要を公言し探検家「能海寛」としての旅立ちが始まった。



目的達成のため用意周到に語学と体力の練磨に勤しんだ。20年よりチベット学の権威者・小栗栖香頂に「倫敦」、吉谷覚寿に「仏教学」を学び、21年10月より、普通教校・文学寮内にて英文会(E. C. S)を主宰し、メンバー47名の先頭に立ち「NEW Buddhist (新仏教徒)」と称する機関誌(週刊)を発行し、仏教を英語で発信する「新仏教徒運動」を興した。

22年9月、郷里にて、檀家一統と将来、住職となる約束(「学資金ニ付訂約書」)で学資金270円の支援を受け、文学寮を12月に辞して、学友3人で上京する。

23年には慶應義塾に入学し、学内において、17名の同窓生で、東京版のE. C. Sを主宰し英文機関誌「Wisdom & Mercy (智慧と慈悲)」(月刊)を発刊した。この間にも、英学をW・ウエストーンやE・アーノルドから学び深い親交を深めた。慶應義塾在学中に、古河勇と同居・自炊(4か月間)して「木石書院」と名付けて、新仏教徒運動を模索した。その後、西蓮寺(白山謙致)へ桑門環と転居して、西蓮寺にて会合を開き、「土曜会」を慶應義塾内につくるため尽力した。

しかし、学資金を支援した檀家の強い要望により東洋文化史を学ぶため哲学館(現在の東洋大学)へ転学して3年間学んだ。この間においても東北紀行、富士山単身登山、伊豆七島巡りなど聖地巡礼や水練(4種類会得)でチベット探検を思い描きながら訓練と体験を積んだ。

哲学館在学中は、「純正哲学自解」を著し、『世界に於ける仏教徒』の草稿を固める。友人の白山謙致、子安善義と「三伽会」をつくり、南條文雄の門下生として、大経(サンスクリット)の訳読に取り組んでいた。

明治26年7月7日、哲学館を卒業、帰郷前に全国青年仏教会の夏期講習会場の鎌倉と二見の2か所で、大内青巒と同席して、「西藏探検の必要」を訴え、自ら探検を実践することへの支援を発表した。同年11月には、『世界に於ける仏教徒』を自費出版して「西藏探検の必要」を発表し、全国の主要書店で販売された。

明治27年1月3日、郷里の浄蓮寺で正月を過ごした。寛は「探検」か「住職」かの人生の岐路に立ち、「口代」(遺書)にチベット探検の心情を切々と記した。表紙の裏には「明治27年2月27日、剪髪其毛ヲハ後ノ為メト紙ニツツミ箱ニ入レ置予無事帰国セバ吉祥若シ業ノ為ニ死界ハ遺体ト思ヒ御葬送ヲ・・・。」と認めた。

この年から3年間に亘ってチベット探検の派遣僧としての援助を受けるため京都の本山宛てに企画・嘆願した。日清戦争の勃発で願いが実現できなかった。

28年2月、故郷で、「波佐倶楽部」を結成して、『輿地史略』を教材に、世界地誌を学習し、海外へ4名の渡航者を排出した。そして、中世史年表の編纂、儉約貯金の推奨を指導した。同年8月には、益

田市沖の離島、高島へ渡り、僻地における寺子屋教育を推進する。

明治29年3月、再び上京して、恩師南條博士宅へ寄留し、梵語とチベット語を学び、宮嶋大八氏からは中国語を学んだ。さらに西洋医学、東洋漢方の両面を学び単独探検に備えた。在京中には、多数の論文を発表した。「経緯会」へも参画し、古河勇の後を受け活動していた北条太洋(外交官で渡航)の送別会では、幹事を務めた。西依一六らと会是をつくり、立て直しを図った。

住職となる契約で学資金を拠出した郷里の檀家の願いと英訳經典を世に出すためにチベット語大蔵經を求め、義父の健在な内にチベット行きをと模索する寛とでは大きな考えの隔たりがあった。結婚をさせてチベット行きを諦めさせようとする檀家の強い希望を受け入れ、義父の姪・佐々木静子と明治31年6月郷里で結婚した。

結婚間もなく、本山からチベット行きの許可が下り、10月4日に新妻に送られ県境の大佐山で袂を別ち京都で渡航手続きに1か月を過ごし、渡航前に上京して、普通教校、文学寮、経緯会、反省会、南條博士などによる送別会が開かれた。

大谷光瑩法主よりダライ・ラマ13世宛て親書を預かり、11月12日、神戸港を出航し長崎経由で上海へ向った。

能海の探検は、一つには、聖地巡礼の目的があった。峨眉山登山、玄奘、義浄の聖地巡拝、寺院参詣と方丈との面談、サンスクリット經典の収集、西藏仏像の模写、仏典・仏具の購入、回教徒地域の巡礼、拓本の収集、チベット語大蔵經の翻訳が主目的であった。能海の寄稿文、日記、論文は100年後に活用できる記述物である。

巡礼探検コースは大きく3回に分けられる。1回目は、寺本婉雅と同行し、四川省成都の西方ダルツェンドを出発巴塘で官吏にチベット入国を阻まれ無念の歌を詠んだ。

のぞめども 深山の奥の 金沙江

つばさなければ わたりえもせず

当時は、巴塘はダライ・ラマの直活地であったことから日本人として最初にチベットへ入国したこととなる。ダルツェンドまで引き返した。同行の寺本婉雅は、帰国し、能海はそのまま半年間滞在して、入手したチベット語大蔵經(般若心經、無量寿智經、弥勒菩薩誓願經、金剛經、西藏語ボン教の無量寿經など)を四カ国語に翻訳完成させた。初期の目的の大半を既に達成させた。

2回目の探検は、成都から西安を経て甘肅省西寧に達し、青海省タンガルに着き、チベットへ向う商隊に紛れ込み入国するつもりであったが、タンガルの宿にて盗賊に金品を奪われ止む無く重慶までリタイヤした。蘭州からの帰途は、回教徒地区を巡礼して、見聞を深めた。

3回目の探検は、貴陽経由の雲南省路を選んだ。「今ヤ極メテ僅少ナル金カヲ以テ深く内地ニ入ラントス。歩一步難ヲ加ヘ前途気遣ハシキ次第ナレド、千難万障ハ勿論、無二ノ生命ヲモ既ニ仏陀ニ托シ、此ニ雲南ヲ西北ニ去ル覚悟ナリ。」一命を投じて求道する青年僧の行方は34年4月18日付、麗江(鄧川)から南條文雄博士あて音信をもって「命日」と定め、不帰の人となった。

中国での2年半の12,000Kmの巡礼探検中に記述した日記・紀行文・論文・經典研究などを日本へ、その都度送付した。その資料が、平成17年から5年の歳月を費やし『能海寛著作集』全15巻(17冊)・別巻(1冊・総合索引)が刊行され、今日の「能海学」研究の基礎となっている。能海寛の生き様は、現代の我々に生きる指針として未永く後世へ語り継がれることでしょう。

(文責・能海寛研究会事務局長 隅田正三)

能海寛顕彰運動（明治・大正・昭和・平成）の足跡

① 能海寛の略歴

- 明治 元年 5月18日 浜田市金城町長田、浄蓮寺(法憧・ユクノの次男)に生まれる。
- 明治 10年 6月12日 広島小教校(進徳教校)に入学する。
- 明治 12年 10月18日 京都東本願寺にて得度する。
- 明治 19年 3月 日 京都普通教校へ入学する。西藏探検を公言する。
- 明治 20年 3月 3日 普通教校本科初年級へ編入する。
- 明治 21年 10月 14日 E.C.S(英文会)を立ち上げ『NEW BUDHIST』を発刊する。
- 明治 22年 1月 28日 大学林文学寮本科2年甲生へ編入する。
- 明治 23年 2月 3日 慶応義塾へ入学する。『Wisdom and Mercy』を発行する。
E.アーノルド、W.ウエストンと交流、指導を受ける。
古河勇と「木石書院」同居自炊生活。「土曜会」設立に尽力。
- 明治 24年 1月 15日 哲学館へ転入学する。「二河白道の比喩」を英訳する。
- 明治 25年 4月 8日 各界各層へ働きかけ「釈尊降誕会」設立に尽力する。
- 明治 26年 7月 7日 「純正哲学自解」を著す。哲学館高等科上級を修了する。
全国仏教青年会夏期講習会(鎌倉、二見)の2会場で「西藏探検の必要」を発表。
- 明治 26年 11月 18日 『世界に於ける佛教徒』を自費出版する。全国の主要書店で販売される。
- 明治 27年 1月 3日 自坊にて、西藏探検に向けて「口代」(遺書)を書き、自髪を切り置く。
- 明治 27年 7月 日 京都本山あて西藏探検の上申を行うも日清戦争勃発で探検行は不可能となる。
- 明治 28年 2月 18日 「波佐倶楽部」を設立。世界地誌の学習、中世史の編纂、儉約貯金を推奨する。
- 明治 28年 8月 18日 益田市沖の高島で寺子屋教育(へき地教育の先駆者)を行う。
- 明治 29年 3月 日 再び上京して、南條博士宅へ寄留し梵学、中国語を学ぶ。「経緯会」へ運営参画する。
西藏探検行の企画書(嘆願、予定、履歴書)を本山、渥美執事あて、上申する。
- 明治 31年 6月 29日 能海寛、浄蓮寺にて佐々木静子と結婚式を挙げる。9月末に探検行の許可が下りる。
- 明治 31年 10月 4日 能海寛チベット探検のため、家族、地区民に見送られて浄蓮寺を出発する。
- 明治 31年 11月 12日 神戸港を出航、中国上海へ、チベット探検に向かう。3回の探検で12,000km踏破。
- 明治 33年 1月 11日 「般若心経」、2月18日「金剛経」、「西藏ボン教」など5巻を4か国語に翻訳する。
- 明治 34年 4月 18日 南條文雄博士あて最後の音信の日付を寛の命日としている。
- 明治 36年 5月 16日 哲学館より「講師」の称号が寛の生前の業績に対して贈られる。
(哲学館卒業後10年経過し、卓越した業績を残した者へ贈呈される)
- 大正 6年 4月 30日 17回忌法要を記念して能海寛追憶会(私立真宗大谷大学内)では、寺本婉雅が編纂責任者となり『能海寛遺稿』を出版。能海寛17回忌法要が浄蓮寺で執り行われる。寺本婉雅が赴き、記念講演を2座務める。大谷大学においても17回忌法要が執り行われる。
- 昭和 17年 11月 4日 付け本山より西藏探検で殉職した寛に対し『大僧都』が伝達される
- 昭和 17年 12月 5日 能海寛の40回忌法要が勧修される



能海 寛



② 顕彰活動のはじまり

- 昭和49年11月 3日 波佐文化協会主催の波佐地区文化祭で「能海寛遺品展」を開催する。これ以降、能海寛の資料調査に着手する。
- 昭和51年11月 28日 波佐文化協会発起で『郷土の傑人(能海寛・島村抱月)顕彰板』が地区民浄財で建立。
- 昭和53年11月 3日 金城町歴史民俗資料館のオープンに伴い能海寛遺品資料の寄託を浄蓮寺より受け「能海寛資料」として展示。
- 昭和55年 9月24日 NHK松江放送局製作『島根人物伝・能海寛』(15分番組)が放映される。
- 昭和56年11月 3日 波佐文化協会主催で『ラマの都チベット写真展』及び『世界の屋根ラマの都を訪ねて』講師・NHKプロデューサー・上野克二氏による講演会を開催。
- 昭和56年12月 1日 能海寛顕彰会(会長・小森信一氏)が結成さる。
- 昭和57年 6月 6日 町内外から多数の協力を得て『能海寛師顕彰碑』が建立除幕される。竣工記念「大花田植え」を開催する。
- 昭和57年 7月 1日 フォトしまね第85号・郷土史夜話「チベット探検家・能海寛」隅田正三著を掲載。
- 昭和58年 2月23日 NHK松江放送局製作『知られざる先駆者＝チベット探検家・能海寛』(30分番組)放映。中村元氏出演『世界に於ける仏教徒』を読まれ、中外日報へ特集取材を依頼。
- 昭和58年 3月 9日 中外日報「チベット探検の先駆者能海寛」(上)中村元氏寄稿記事掲載。特集記事掲載。
- 昭和58年 3月 11日 中外日報「チベット探検の先駆者能海寛」(下)中村元氏寄稿記事掲載。
- 昭和60年～63年 波佐文化協会発行の季刊『なわて』(第7号～第15号)で、「求道の師・能海寛」を連載し波佐地区全戸へ配布される。
- 昭和61年 8月31日 能海寛新資料が大量に発見(チベット語・梵語・中国語の研究ノート、上京中のハガキ・手紙・中国大陸旅行中のメモを書いた手帳、寛の学んだと書類、寛の愛用していた机など約800点)。全点数歴史民俗資料館へ寄託展示されている。
- 昭和62年 3月20日 能海寛資料刊行会『チベット探検の先駆者・能海寛』の絵葉書カラー版(8枚1組)発行。
- 昭和62年 3月27日 能海寛の足跡を訪ねるドキュメンタリー番組『中国大秘境』がフジテレビ系列で全国放映。(日中国交回復15周年を記念して中国西南部の四川、雲南、貴州の三省を紹介)
- 昭和62年 6月25日 東京大学出版会刊『チベット』上巻・山口瑞鳳著が出版される。
- 昭和62年 8月22日 波佐文化協会主催リーダー養成講座『波佐寺小屋セミナー』第9回講座で『能海寛と東洋哲学』と題し山口瑞鳳(当時名古屋大学教授)先生より講演を拝聴。この時に能海寛請来チベット文献の解読整理を戴く。
- 昭和63年 3月31日 東京大学出版会刊『チベット』下巻・山口瑞鳳著が出版される。
- 昭和63年 5月 1日 西中国山地民具守る会による『能海寛生誕120年特別展』金城町歴史民俗資料館開催。
- 昭和63年11月1日 農民画家・池田一憲画「能海寛像」「能海寛師顕彰碑と大佐山」等3点の油絵、「馬に乗った寛師」等2点のカットを金城町歴史民俗資料館へ寄贈。
- 昭和63年11月 1日 西中国山地民具を守る会「能海寛生誕120年記念第二次特別展」開催(12月28日迄)。
- 平成元年 4月15日 佼正出版刊・「西藏求法伝『風の馬』」村上護著が出版される。
- 平成元年12月15日 波佐文化協会刊『チベット探検の先駆者・能海寛』隅田正三著を出版。
- 平成 3年 3月30日 島根県広報協会刊・しまねPR読本『コンパス』「人物・能海寛」を掲載。
- 平成 4年 4月20日 能海寛研究について中村元先生からアドバイスを受ける。記念館建設の進言を受ける。
- 平成 5年 3月 1日 山と溪谷社刊『西藏漂泊』上巻・江本嘉伸著が出版される。
- 平成 5年10月 2日 堺市博物館主催「特別展・河口慧海＝仏教の原点を求めた人＝」で能海寛資料も公開。
- 平成 6年 4月20日 山と溪谷社刊『西藏漂泊』下巻・江本嘉伸著が出版される。
- 平成 6年11月 3日 波佐文化協会が能海寛研究会設立を全国へ呼びかける。

能海寛研究会の事業概要

- 平成 7年 1月22日 「能海寛研究会」発会式(金城町波佐・ときわ会館)。島根県立国際短期大学及び能海寛に関わる全国の研究者の支援により52名参加で発足。
- 平成 7年 3月12日 能海寛研究会第1回定例学習会がスタートする。
- 平成 7年 7月15日 機関誌『石峰』創刊号発行。
- 平成 7年 7月16日 第1回能海寛研究会年次大会&第3回定例学習会
記念講演『能海寛～チベットを目指した最初の日本人』
～日本・チベット交流史におけるその役割～
講師・江本嘉伸氏(『西藏漂泊』の著者)
- 平成 8年 2月 20日 機関誌『石峰』第2号発行。
- 平成 8年 7月14日 機関誌『石峰』第3号発行。
第2回能海寛研究会年次大会&第9回定例学習会
記念講演『風の馬』～西藏求法伝～＝石見の能海寛と堺の河口慧海＝
講師・村上護氏(『風の馬』の著者)
- 平成 9年 7月 20日 機関誌『石峰』第4号発行。
- 平成 9年 7月20日 第3回能海寛研究会年次大会&第15回定例学習会
記念講演『ヒマラヤの東』の山と谷～能海寛が消えた横断山脈～
講師・中村保氏(『ヒマラヤの東』の著者・登山家)
- 平成 9年10月31日 今福小学校道徳学習で『能海寛のチベット探検』を松尾隆教諭が実施。
研究会では、全面支援する。
- 平成10年 2月 20日 機関誌『石峰』第5号発行。
- 平成10年 3月 7日 「能海寛チベット壮途100年記念」&能海寛研究会第19回定例学習会
演題「『日本人の旅と冒険』～21世紀に向けて～」
講師・江本嘉伸氏(「地平線会議」代表世話人)。
- 平成10年 7月12日 第4回能海寛研究会年次大会&第21回定例学習会
能海寛チベット壮途100年記念『旅と冒険フォーラム』
第一部【特別対談】60年前のチベット体験
野元甚蔵さん(チベット探検家)&江本嘉伸さん(作家)
第二部【パネルディスカッション】
『旅と冒険』～人はなぜ旅に出るのか～ コーディネーター:江本嘉伸氏
① なぜ、リヤカーをひいてアフリカ大陸を歩いたか」永瀬忠志氏
② 島旅にどうしてもとりつかれてしまったのか」河田真智子氏
③ 能海寛の足跡をたどる旅」中村保氏



能海寛研究会発会式



第1回年次大会開催



「旅と冒険フォーラム」開催

- 平成 10 年 10 月 17 日 チベット行 100 年記念『河口慧海・能海寛』
 ～二人の先駆者の生涯と今日的意義～ 講演と討論の会へ参加
 主催:東洋大学アジア・アフリカ文化研究所、会場:東洋大学。
 基調講演:高山龍三、隅田正三。パネラー:岡崎秀紀。
- 平成10年11月14日 能海寛研究会第23回定例学習会
 ① 『進蔵朝佛記』に見る能海寛の足跡(西安～六盤山)』
 岡崎秀紀副会長。
 ② 能海寛の寧夏回族自治区での能海寛の評価』
 姚詩氏(中国・銀川市)、(通訳)貴志春子氏
- 平成 11 年 3 月 20 日 機関誌『石峰』第6号発行。
- 平成11年 5月15日 『能海寛の立像(彫塑)完成除幕式』(岡堂義武製作)金城町歴史民俗資料館にて
- 平成11年 7月18日 第5回能海寛研究会年次大会&第27回定例学習会
 【特別講演】『還日本海交流で未来を拓く』澄田信義島根県知事。
 【記念講演】『能海寛と明治仏教理念と現実』白須浄眞氏(広島市)。
- 平成11年11月20日 能海寛研究会第29回定例学習会
 「『井上円了の教育理念』～能海寛を育てた人～」
 講師:三浦節夫氏(東洋大学助教授)。
- 平成12年 3月11日 能海寛研究会第31回定例学習会
 「能海寛と知的国際交流」島田雅治氏(島根県立国際短期大学長)。
- 平成12年 7月16日 機関誌『石峰』第7号発行。
 第6回能海寛研究会年次大会&第33回定例学習会
 【記念講演】「還日本海交流で未来を拓く」
 内藤正中氏(島根大学名誉教授)。
- 平成12年11月11日 能海寛研究会第36回定例学習会(移動学習会)
 「能海寛のたどった古道を訪ねる旅」
 ときわ会館～浄蓮寺～県境～妙蓮寺～松原～加計町(船着場)～専光寺
- 平成13年11月15日 機関誌『石峰』第8号発行。
- 平成13年11月18日 第7回能海寛研究会年次大会&第41回定例学習会
 【記念講演】『能海寛と四川の100年後』飯塚勝重氏(東京都)
- 平成14年 7月14日 第8回能海寛研究会年次大会&第45回定例学習会
 【定例学習会】「世界に於ける仏教徒」に学ぶ⑥
 ～「能海学」を構築する原点の学習シリーズ～
 【記念講演】『私と能海寛研究』岡崎秀紀副会長



澄田県知事を迎えて第5回年次大会



第二次能海資料の発見・公開



中国銀川市で世界会議開催

- 平成14年 9月13日 能海寛研究会第46回定例学習会(研修旅行)
「国際チベット研究シンポジウム」へのオブザーバー参加
京都市・龍谷大学大宮学舎本館(清和館)10:00～18:20(会員12名参加)
- 平成14年11月 9日 能海寛研究会第47回定例学習会&ジュニア版学習会①
「能海寛の幼年期・少年期・青年期(国内編)」隅田正三
- 平成15年 1月12日 能海寛研究会第48回定例学習会&ジュニア版学習会②
「能海寛の巡礼探検行(海外編)」隅田正三
- 平成15年 3月 8日 能海寛研究会第49回定例学習会&ジュニア版学習会③
「能海寛の業績評価と最新情報」隅田正三
～映像プロジェクターにより最新の研究成果を発表～
- 平成15年 7月13日 第9回能海寛研究会年次大会&第51回定例学習会
【記念講演】『総合報告 能海寛研究』講師・岡崎秀紀副会長
【会員研究発表】
『中国雲南省の中甸博物館における能海寛資料室の取組み』張彦萍氏(中国・雲南省)
- 平成15年10月11日 『能海寛・ふるさと100Kmウルトラ遠足』試走会を支援。
金城町と広島県芸北町、戸河内町、加計町の能海寛ゆかりの地を巡る100Km、
(スタートは、ときわ会館、ゴールは、浄蓮寺の顕彰碑前)
- 平成15年 12月15日 機関誌『石峰』第9号発行。
- 平成16年 7月10日 第10回能海寛研究会年次大会&第57回定例学習会
「能海寛の書簡と日記」を読む
【記念講演】『西域探検の世紀と能海寛』講師:金子民雄氏(歴史家)
- 平成16年 10月23日 第1回能海寛ふるさと100Kmトレイル遠足全国大会支援。
- 平成17年 1月 8日 能海寛研究会第60回定例学習会
「能海寛書簡と日記」シリーズ⑥『渡清日記』を読む。
楊暹氏(中国)より「中国文献について」発表。
- 平成 17年 3月25日 『能海寛著作集』第一巻刊行。
- 平成17年 6月15日 機関誌『石峰』第10号発行。
- 平成17年 7月10日 第11回能海寛研究会年次大会&第63回定例学習会
「能海寛の書簡と日記」シリーズ、『東北紀行』を読む。
【記念講演】
『日記に見る求道者河口慧海』講師:高山龍三氏
【会員研究発表】
「『能海寛の雲南コースについて』=清代の入蔵ルート資料との比較=
発表者 : 何大勇氏(中国・雲南省)



中国から楊暹氏を迎えて学習会



年次大会での発表者



中国・張彦萍氏の年次大会発表

- 平成17年 10月 22日 第2回能海寛ふるさと100Kmトレイル遠足全国大会支援。
- 平成18年 2月15日 機関誌『石峰』第11号発行。
- 平成18年 2月24日 「今枝由郎氏を囲む夕べ」懇談会開催。
- 平成18年 7月 9日 第12回能海寛研究会年次大会&第69回定例学習会
- 平成18年 8月19日 能海寛のふるさと「歌碑めぐりウォーキング・ラリー」波佐文化協会主催を支援。
浜田市金城町波佐・ときわ会館 8Km コース(8箇所ガイド付き)
- 平成19年 2月15日 機関誌『石峰』第12号発行。
- 平成19年 5月 5日 第1回「能海寛歌碑めぐりウォーク」の後援。
- 平成19年 7月 8日 第13回能海寛研究会年次大会&第75回定例学習会。
- 平成19年 9月 8日 能海寛研究会「東京大会」兼第76回定例学習会。会場＝日本プレスセンタービル。
- 平成20年 3月15日 機関誌『石峰』第13号発行。
- 平成20年 7月13日 第14回 能海寛研究会年次大会兼第81回定例学習会開催。
「20世紀初頭のチベットをめぐる国際情勢—能海寛研究に新視点を
講師 広島大学大学院教育学研究科専任講師 白須淨眞氏
- 平成20年 7月23日 「能海寛歴史資料」357点が浜田市指定文化財となる。
- 平成20年12月 1日 機関誌『石峰』(Sekihou)、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)
「ISSN 1883-4183」を取得。
- 平成21年 3月15日 機関誌『石峰』第14号発行。
- 平成21年 7月12日 第15回 能海寛研究会年次大会兼第87回定例学習会開催。
【記念講演】
- ① 「梵語・チベット語学生としての能海寛」
(講師) 高野山大学教授 奥山直司氏
- ② 「カトリック宣教師の道」～雲南からチベットへ～
(講師) 横断山脈研究会会長 中村保氏
- ③ 「『能海寛著作集』に見える坪井正五郎の人類学講義録」
(講師) 能海寛研究会長 横田禎昭氏
- 平成22年 3月15日 機関誌『石峰』第15号発行。
- 平成22年 7月18日 第16回 能海寛研究会年次大会兼第93回定例学習会開催。
【記念講演】
「明治における仏教研究の動向」
(講師) 元龍谷大学長 上山大峻氏
- 平成22年11月13日 第95回定例学習会(研修旅行を兼ねる)
別府市北浜町・別府別院「大谷記念館」を会場に、見学会と記念講演。
記念講演:「大谷光瑞と現代」講師:掬月誓成氏(大谷記念館副館長)



東京・記者クラブで「東京大会」



銀川一中から訪問団



『能海寛著作集』完結発表会

- 平成23年 3月15日 機関誌『石峰』第16号発行。
- 平成23年 7月10日 第17回 能海寛研究会年次大会兼第99回定例学習会開催。
- 平成23年11月12日 定例学習会100回記念事業（会場:ときわ会館）
【記念セレモニー】「能海寛研究会17年の歩み」
【記念講演】「多田等観の見た近代日本とチベット」
 講師:高本康子氏(群馬大学講師)
- 平成24年 3月15日 機関誌『石峰』第17号発行。
- 平成24年 7月 8日 第18回「能海寛研究会年次大会&第104回定例学習会」
記念講演
 『青海におけるダライ・ラマ3世とアルタンの会見』
 ～モンゴル人がチベット仏教信仰を深めたきっかけの諸事情～
 講師 井上 治氏(島根県立大学教授)
- 平成25年 3月15日 機関誌『石峰』第18号発行。
- 平成25年 7月14日 第19回「能海寛研究会年次大会&第110回定例学習会」
記念講演
 『日本のインド研究』
 講師 大前 太氏(島根県立大学教授)
- 平成25年11月 9日 第112回移動定例学習会(松江市・中村元記念館)
 記念講演「中村元の業績と『東洋人の思惟方法』の意義—能海寛研究の可能性」
 講師:上野敬子氏(中村元記念館理事)
- 平成26年 3月15日 機関誌『石峰』第19号発行。
- 平成26年 7月13日 第20回「能海寛研究会年次大会&第116回定例学習会」
特別講演 (13:00～14:00)
 「浜田の課題と新たな『観光』づくり」
 (講師) 浜田市長 久保田 章 市 氏
記念講演 (14:10～16:00)
 「井上円了と能海寛」～2人の近代仏教者～
 (講師) 東洋大学教授 三 浦 節 夫 氏
- 平成26年 7月23日 石峰&抱月のふるさと「地域研究センター協議会」を設立する。
 ふるさと「地域丸ごとミュージアム」を推進し、「学べる博物館」創りを目指す。
- 平成26年 7月23日 波佐文化協会、能海寛研究会、西中国山地民具を守る会が参画し、能海寛のふるさと「地域研究センター協議会」を発足。HP「波佐ネット通信」を発信。機関誌『石峰』掲載の論文をアーカイブとして発信開始。
- 平成27年 1月10日 第119回定例(移動)学習会。東洋大学キャンパスにて。



「大谷光瑞記念館」移動学習会



「南方熊楠頭彰館」訪問・移動学習会

「能海寛研究会20年の歩み」をパワーポイント上映。

開会セレモニーは、岡崎会長の20周年を迎えお礼の挨拶。

20周年記念懇親会:寿司割烹「魚邦」14名参加

平成27年 1月11日 巡見(見学会)能海寛縁の地を訪ねる(哲学館発祥の地など)

平成27年 2月 4日 島根県「いきいき活動奨励賞」を受賞。

平成27年 3月15日 機関誌『石峰』第20号発行。

平成27年 5月 5日 能海寛研究会『石峰』収載論文をアーカイブHPにアップ。

平成27年 5月 9日 能海寛PR用パンフ(中国語版)HPにアップ。

平成27年 7月11日 第3回チベットセミナー開催(一般公開講座)

映画会「ケサル大王」上映(島根県立大学交流センター)

平成27年 7月12日 第21回「能海寛研究会年次大会&第122回定例学習会」

ゲストスピーチと映画上映 (15:00~16:00)

「東チベットの現在」ミニ講演と映画「天空の大巡礼を行く」上映

(講師)映画監督 大谷 寿一氏

平成28年 3月15日 機関誌『石峰』第21号発行。

平成28年 7月 9日 第4回チベットセミナー開催(能海寛研究者、初心者入門講座)。

平成28年 7月10日 第22回「能海寛研究会年次大会&第128回定例学習会」

記念講演会 (14:00~16:00)

「能海寛と寺本婉雅のボン教研究」

(講師)大谷大学准教授 三宅伸一郎氏

平成29年 3月15日 機関誌『石峰』第22号発行。

平成29年 7月 8日 第5回チベットセミナー開催(能海寛研究者、初心者入門講座)。

平成29年 7月 9日 第23回「能海寛研究会年次大会&第134回定例学習会」

記念講演会 (14:00~16:00)

「新仏教徒能海寛と『在渝日記』に見る連作五言絶句の意味するもの」

(講師)東洋大学客員研究員 飯塚勝重氏

平成30年 3月15日 機関誌『石峰』第23号発行。

平成30年 5月 1日 能海寛生誕150年記念企画展『能海寛が目指した世界平和』展示支援。

【今後の記念事業予定】

平成30年 7月 7日 第6回チベットセミナー&第24回年次大会

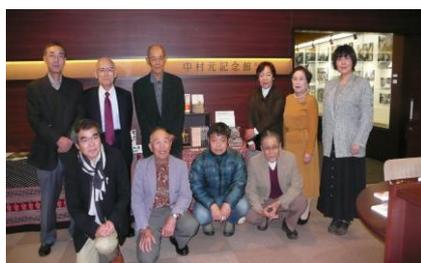
平成30年 7月 8日 能海寛生誕150年記念式典(10:00-11:00)

生誕150年記念シンポジウム(13:00-17:00)

第一部 基調講演 『能海寛が日本の若者に伝えたかった事』講師:江本嘉伸氏

第二部 パネルディスカッション『今、能海寛から学ぶもの』コーディネータ:江本嘉伸

パネリスト:岡崎秀紀、奥山直司、飯塚勝重、高本康子、能海教信。



「中村元記念館」訪問・移動学習会



東洋大学にて119回定例学習会開催



第5回チベットセミナー

能海寛研究会機関誌『石峰』 収載論文データ

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 創刊号】 1995.7.15 発行 B 5判 32P

「機関紙『石峰』の発刊にあたって」	中村 元
「能海寛研究会設立にあたって」	横田 禎 昭
「能海寛研究会」の機関紙『石峰』の発刊を祝して	山口 瑞 鳳
「生涯学習と能海寛研究」	山本 多喜司
「能海寛とチベット仏教」	山口 瑞 鳳
「島根と寧夏の交流の原点」	岡崎 秀 紀

～チベット学僧 能海寛の寧夏地区シルクロードの記録～

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第2号】 1996.2.20 発行 B 5判 48P

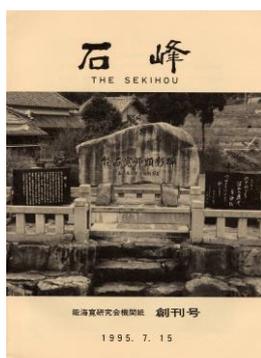
「能海寛ーチベットを目指した最初の日本人」	江本 嘉 伸
～日本・チベット交流史における その役割～	
「能海寛のたどった川蔵公路(ティロード)」	桑原 良 敏
「日本アルプスの父W・ウエストンと日本文化の紹介者・小泉八雲」	岡崎 秀 紀
能海寛「髻髻&「友好」の中国旅行」	小 金 進
～浜田広域圏第三次友好訪中団に参加して～	
「ふるさと石見の峰から西藏の峰へ」	浜村 一 城
「位鮮為知的日本蔵学家 能海寛」	胡 振 華

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第3号】 1996.7.14 発行 B 5判 48P

『能海寛と日本アルプスの父W・ウエストンとの出会い』	岡崎 秀 紀
～1890年(明治23年)の慶応義塾を舞台にして～	
能海寛の英文機関紙「No.1『Wisdom And Mercy』全文掲載」	能 海 寛

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第4号】 1997.7.20 発行 B 5判 52P

「甘 肅 論」	能 海 寛
「進蔵朝佛記(甘肅のみ旅行行程記録掲載)」	能 海 寛
「能海寛の宗教観」	品川 知 彦
ウエストンの1905年7月8日付「タイムス」記事について	岡崎 秀 紀
～戦争による日本兵士家族の窮状を訴える～	
「能海寛の歩いた川蔵公路」	桑原 良 敏
「四川省の『草鞋』」	中村 保
「寧夏回族自治区を訪問して」	楨田 修 身
「能海寛の精神を永続させる！」	姚 詩



【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第5号】 1998.2.20 発行 B5判 100P

「横断山脈に消えた能海寛」～チベット探検の先駆者の足跡を訪ねて～
「慶応義塾時代の能海寛」
～「慶応義塾学報」とアーノルド卿との出会いを中心にして～

中村 保
岡崎 秀紀

「能海寛と哲学館勤惰表」
「大理・麗江を旅して」～麗江から西藏への能海の道小考～

飯塚 勝重
由井 格

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第6号】 1999.3.20 発行 B5判 126P

能海寛の心は、つがれている「壮途100年記念・旅と冒険フォーラム」
「求道の士 能海寛師を忍んで」
「60年前のチベット体験」
「だから旅に出たくなる」
「能海寛フォーラム」
「フォーラムを振り返って」
「能海寛の事績」
「チベット探検の先駆者『能海寛』の生涯と業績」
『夢を掴んだ男』～能海寛の一生～
『シャングリラ』桃源郷をめぐるトラブル
『雲南省からチベットへの旅』 幻のルート・昆明～ラサ走破行
能海寛の業績を紹介した『慶応義塾学報』の『龍北学人』について
～能海寛とのかかわりを中心として～

江本 嘉伸
野元 甚蔵
野元 甚蔵
永瀬 忠志
河田 真智子
中村 保
姚 詩
隅田 正三
志波 健二
中村 保
盛田 武士
岡崎 秀紀

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第7号】 2000.7.16 発行 B5判 84P

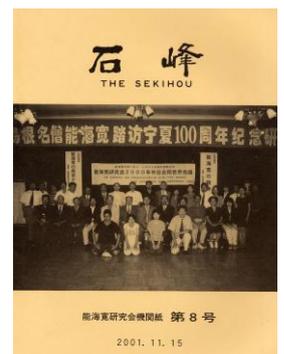
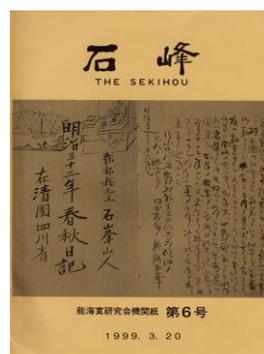
『環日本海交流で未来を拓く』
『能海寛と西蘭公路の旅』（その1）
『哲学館を巡る河口慧海と能海寛について』
『慶応義塾時代の能海寛について』（第Ⅱ報）
～能海寛の入社帳と勤惰表～

澄田 信義
横田 禎昭
飯塚 勝重
岡崎 秀紀

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第8号】 2001.11.15 発行 B5判 108P

『能海寛終焉の地周辺の旅』
「S.ベリー著『僧・スパイ・お雇い軍人～西藏に入った10人の日本人の物語』」
～S.ベリーの能海寛論と横死訛傳見解について～
「河口慧海のアジア観」
「川蔵公路旧道の旅（理塘～巴塘を中心として）」
「高島における能海寛の活動」

由井 格
岡崎 秀紀
高山 龍三
永井 剛
志波 健二



「寧夏行」

飯塚勝重

「能海寛書簡(「父上への懺悔と依頼」)

能海寛

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第9号】 2003.12.15 発行 B5判 116P

西藏求法僧『能海寛の西安から蘭州への旅』 (第二部)

横田禎昭

「ウエストンは能海寛と出会ったのか」

川村宏

川村宏氏の論考「ウエストンは能海寛と出会ったか」を読んで

岡崎秀紀

「ひたすらチベット探検につとめた人・能海寛」

楊暹

「能海寛『世界に於ける佛教徒』に見るチベット観」

高本康子

「能海寛の英語学習と発信の経歴について」

岡崎秀紀

～英語との出会いから世界仏教までの道～

もうひとつの夢：チベット探検家能海寛を記念する 100Km 遠足を試走して 江本嘉伸

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第10号】 2005.6.15 発行 A4判 68P

「能海寛大師への認識を深める」～中文書籍に能海寛大師への名前を初めて発見～ 姚詩

～中文書籍に能海寛大師への名前を初めて発見～

「一九〇五年能海寛横死報道と日本人のチベット観」

高本康子

「能海寛 求法の軌跡」～東京修学時代の日記を中心に～

飯塚勝重

「官話事始め」～能海寛のチベット行と中国学習～

万代剛

「能海寛に関する最近の中国語文献について」

岡崎秀紀

第1回「能海寛・ふるさと 100Kmトレイル遠足」完走記

江本嘉伸

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第11号】 2006.2.15 発行 A4判 60P

「日記に見る求道者河口慧海」

高山龍三

「能海寛の雲南コースについて」～清代の入蔵ルートとの比較～

何大勇

「入蔵者」イメージと能海寛

高本康子

「パリ外国宣教会(MEP)のアーカイブス調査結果について」

岡崎秀紀

「西藏探検行の源流を探る」

隅田正三

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第12号】 2007.2.15 発行 A4判 78P

「現代中国における能海寛」

高本康子

～『日本涉蔵史』に見る能海寛～

「能海寛の外国文献について」

岡崎秀紀

『使用日記』(明治30年)

能海寛

「父法幢と能海寛」

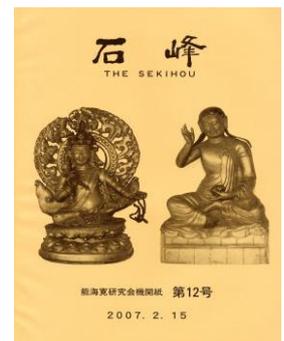
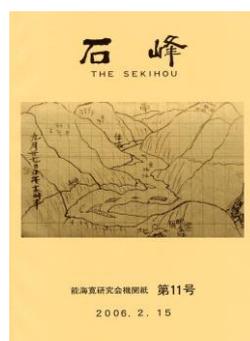
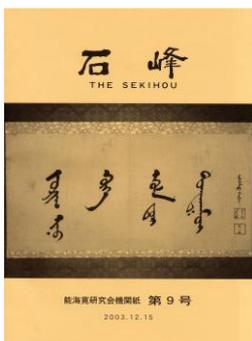
池田一憲

「0708 フランスにチベット研究のデエ先生とラサル氏を訪ねる」

岡崎秀紀

「能海寛の将来した中国・四川省の拓本」

隅田正三



【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第13号】2008.3.15 発行 A4判 48P

『教学論集』と能海寛

高本康子

「入蔵熱の周辺」

平賀英一郎

～蜀丞相諸葛武侯祠堂碑・大峩眉山永明華蔵寺新建銅殿記碑～

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第14号】2009.3.15 発行 A4判 56P

「Wisdom and Mercy」に見る能海寛

高本康子

「能海寛の国際的評価について」

岡崎秀紀

～ドイツ・英国・フランス・台湾での最新出版物に見る～

「能海寛の辿った道を訪ねて」

栗山博子

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第15号】2010.3.15 発行 A4判 72P

「能海寛著作集」に見る坪井正五郎の人類学講義録

横田禎昭

「フィクションの中の能海寛」

高本康子

「能海寛著作集の解説を執筆して」～英語叙述に見る能海寛の考え方、生き方～

岡崎秀紀

「能海寛師の深層心理を探る」

隅田正三

「春秋日記」①（明治22年～23年）

能海寛

「能海寛著作集」の完結に寄せて

金子民雄

「梵語・チベット語学生としての能海寛」

奥山直

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第16号】2011.3.15 発行 A4判 64P

「明治における仏教研究の動向」

上山大峻

「チベットを目指した仏教学者能海寛の故郷を訪ねて」

今枝由郎

「能海周辺の人々」一太田保一郎「西藏」を中心に

高本康子

「能海寛を訪ねるたび・2010年夏の越後路」

岡崎秀紀

～USS出版表敬訪問と井上円了頌徳碑～付記・佐渡と石見

「明治の仏教熱心家、英国人、C・フォンデスと島根について」

岡崎秀紀

「能海寛の父・謙信の学修歴について」

岡崎秀紀

～中津・信昌教校の松島善讓と江崎・教専寺の大巖和上～

「水野斉入あて書簡（大正6年）を巡って」

隅田正三

「春秋日記」②（明治24年～27年）

能海寛

【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第17号】2012.3.15 発行 A4判 60P

『世界無銭旅行者一矢島保治郎』

盛田武士

『能海寛の中国語文献の紹介』 肖平著『近代中国仏教的復興』

岡崎秀紀

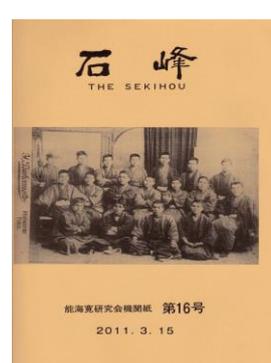
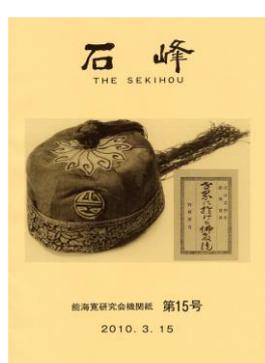
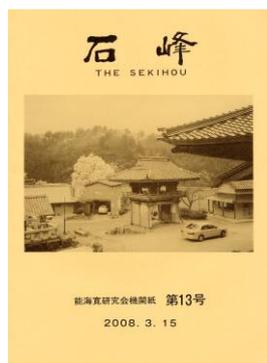
『与日本仏教世界的交往録』 および楼宇烈・張志主編『中外宗教交流史』

『多田等観とチベット』

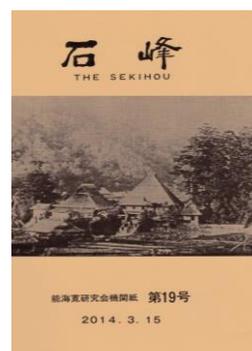
高本康子

「渡清日記」(M31年)

能海寛



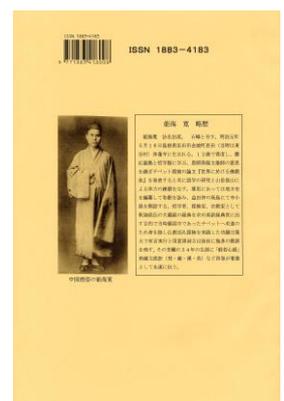
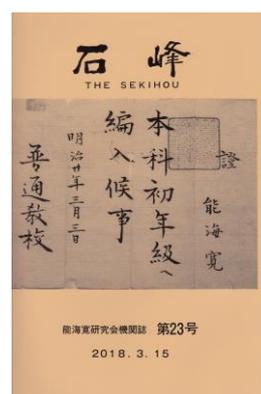
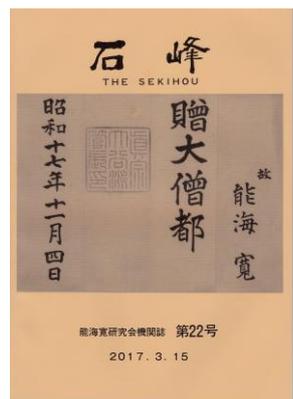
- 「春秋日記」③ (M32年) 能海 寛
『三伽会』 ～能海、子安、白山のこと～ 隅田 正三
- 【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第18号】 2013.3.15 発行 A4判 80P**
- 『雲南探検史断章』 中村 保
『能海寛を訪ねるたび in Paris, 2012年5月』 岡崎 秀紀
フランス極東学院 EFEO、パリ外国宣教会 MEP、パリのチベット文化と在住会員
- 「戦時下の『能海寛』」 高本 康子
能海寛大師的十二首漢詩 姚 詩
「飛越関碑記」(M32年) 能海 寛
- 【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第19号】 2014.3.15 発行 A4判 80P**
- 『インド四大河川の源』カイルス山とマナサロワール湖 金子 民雄
『明治のアイランド人受戒僧 C. フォンデスについてⅡ報』 岡崎 秀紀
～在日記録、幕末維新時の記録、受戒、墓～
「能海の『最期』を語った、フランス人麝香商人G. ペロンヌを追って」 岡崎 秀紀
～フランス外務省アーカイブス、国立図書館～
『日本のインド研究』 大前 太
『山の谷間で生まれる論理』Ⅰ 植田 義法
「理塘雑記」 万代 剛
『普通教校規則』明治20年7月改定版
- 【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第20号】 2015.3.15 発行 A4判 110P**
- 『雲南のキリスト教』 中村 保
『能海寛と宗教的立場』一渡清日記に見る一 飯塚 勝重
『中村元博士とチベット仏教求法僧・能海寛』 岡崎 秀紀
『能海寛を訪ねる旅 2014 フォト紀行 (海外編・国内編)』 岡崎 秀紀
『西蔵仏教求法僧 能海寛と仏跡復興運動のスリランカ人
A. ダルマパーラ』 ～インド仏跡復興運動、出会い、ダルマパーラ
の滞在日記、南方仏教とかかわった人たち～
「寺本婉雅新出資料から見た『能海学』」 高本 康子
『山の谷間で生まれる論理』Ⅱ 植田 義法
「能海寛の『新仏教徒』運動の軌跡」 隅田 正三
タシケント日本人墓地について 栗山 博子
- 【能海寛研究会機関誌 『石峰』 第21号】 2016.3.15 発行 A4判 82P**
- 「木村肥佐生『日誌』(journal)について」 高本 康子
一統教あれこれー『世界に於ける仏教徒』は主張する 飯塚 勝重



A. ダルマパーラの『日記』と『THE BUDDHIST』を調査して ～2015年8月の調査から、能海の『NEW BUDDHIST』との比較～	岡崎秀紀
『能海寛を訪ねる旅 フォト紀行(2014年12月～2015年12月)』	岡崎秀紀
『西洋チベット学の祖、チョーマ・ド・ケレスが与えた 『河口慧海と能海寛への影響について』	岡崎秀紀
～チベット学の系譜：チョーマ・ド・ケレス、H.Bポジソン、E.ビュルヌーフ、 M.ミューラー、S.ビール、南條文雄、能海寛、河口慧海～	
『山の谷間で生まれる論理』Ⅲ	植田義法
【能海寛研究会機関誌 『石峰』第22号】2017.3.15 発行 A4判 74P	
『浄蓮寺蔵書目録と西藏関係書目』～御堂用書のなぞ～	飯塚勝重
寺本婉雅『蔵蒙旅日記』と横地祥原	高本康子
『青海に入った初めての日本人、能海寛の第二次探検ルートの研究』	岡崎秀紀
『能海寛を訪ねる旅 2016』	岡崎秀紀
能海寛の第二次探検ルートの調査から ～青海省タンガル・東科寺・哈拉庫図・扎巴を訪ねる～	
河口慧海師を育んだ塚を訪ねて～生誕150年～	万代 剛
『山野谷間で生まれる論理』Ⅳ	植田義法
【能海寛研究会機関誌 『石峰』第23号】2018.3.15 発行 A4判 72P	
『能海寛第三次チベットへの旅立ち』	飯塚勝重
「能海寛著『世界に於ける佛教徒』(明治26年)の研究」	岡崎秀紀
～能海が言及した19世紀の哲学・宗教研究者の人物・著書調査から見えるもの～	
『純正哲学自解』(M26)	能海 寛
『能海寛(石峰)と古河勇(老川)の新仏教徒運動』	隅田正三
「能海寛の『空』」	植田義法

バックナンバーをお求めの方は、事務局までお問い合わせ願います

能海寛研究会 〒697-0211 島根県浜田市金城町波佐イ 394
 TEL&FAX 0855-44-0010
 E-mail:sekihou@hazaway.com
 http://www.hazaway.com



地域の宝・世界が注目！

「能海寛著作集」刊行全 15 巻・17 冊・別巻 1 冊

(全巻収録内容) 第1巻「能海寛業績全記録Ⅰ」解説：金子民雄、第2巻「能海寛業績泉記録Ⅱ」解説：金子民雄、第3巻「春秋日記」解説：金子民雄、第4巻「中国巡礼探検記録Ⅰ」解説：金子民雄、第5巻「中国巡礼探検記録Ⅱ」解説：金子民雄、第6巻「寄稿論文など」解説：奥山直司、第7巻「能海寛往復書簡Ⅰ」解説：隅田正三、第8巻上「能海寛往復書簡Ⅱ」解説：隅田正三、第8巻下「能海寛往復書簡Ⅲ」解説：隅田正三、第9巻「能海寛往復書簡Ⅳ」解説：金子民雄、第10巻「手帳記録と第一次探検記録」解説：金子民雄、第11巻上「大学講義録と民俗」解説：横田禎昭、第11巻下「大学講義録と民俗」解説：横田禎昭、第12巻「嘆願書と上申報告書」解説：金子民雄、第13巻「英文日記と機関誌」解説：岡崎秀紀、第14巻「フィールド・ノートなどⅠ」解説：隅田正三、第15巻「フィールド・ノートなどⅡ」解説：隅田正三。別巻1「総合索引」編著：隅田正三。



『能海寛著作集』全 15 巻(17 冊)、別巻 1 冊 2010 年 3 月完結

能海寛生誕 150 年記念『顕彰活動全記録』

発行日 平成 30 年 5 月 18 日
発行者 能海寛研究会
〒697-0211 島根県浜田市金城町波佐イ 394
波佐文化協会内
Tel/Fax0855-44-0010
E-mail:sekihou@hazaway.com
郵便振替口座 01430-9-9118



能海寛のふるさと天頂山浄蓮寺遠望